

カリキュラム・ポリシー

【教育課程編成方針】

経営情報学科が目指す人材を育成するために、次の3分野の教育を体系的・系統的に編成し実施します。

- (1) 幅広い教養と健康で豊かな人間性を育む教養教育
- (2) 実践知・資格取得のための専門教育
 - ①経済・経営リテラシー・専門基礎教育、②簿記・会計リテラシー・専門基礎教育、③ICTリテラシー・専門基礎教育
- (3) 主体的かつ自立的なキャリア形成・発達を支援する「三位一体のキャリア教育」
 - ① ビジネス実務教育、② キャリア教育、③ インターンシップ

【教育課程実施方針(学修過程)】

2年間を通じて、上記の3分野の教育を体系的・系統的に実施します。

特に、1年次には、資格取得と「三位一体のキャリア教育」を重点的に実施し、就業力を高めます。

また、2年次には、専門基礎知識ならびに上級資格の取得と、豊かな人間性・社会性を高める教育を重点的に実施します。

【学修成果の評価】

各教科目の成績評価は、シラバスに示された評価方法により、学修成果別評価基準（ルーブリック）に沿って、厳正に行います。

学期毎及び累計のGPAを算出し、総合成績評価を行います。

【教育課程実施方針（学修方法）】と【学修成果の評価方法】

(LO1) 知識・理解	<p>【教育内容】 教育課程全体を通じて、職業人としてビジネスの現場で必要となる「経済・経営」「簿記・会計」、「ICT」、「ビジネス実務」分野における実践的な専門基礎知識・理解の獲得を図る。</p> <p>【教育方法・学修方法】 講義形式が主体である授業においても、反転授業やクリッカー利用型のアクティブ・ラーニングを積極的に採り入れ、知識・理解の定着とともに、思考力・判断力をも高める授業を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 筆記試験等の客観テストで評価する。</p>
(LO2) 技能	<p>【教育内容】 教育課程全体を通じて、情報リテラシーとコミュニケーション・スキルの育成を目指す。特に、教養・専門演習では、レポート作成スキルやプレゼンテーション・スキル等の表現技法を育成する。また、ビジネスの現場で必要となる日商簿記検定資格・日商PC 検定資格や図書館司書等の資格取得を目指す。</p> <p>【教育方法・学修方法】 主に演習形式の授業で実施し、反転授業等のアクティブ・ラーニングやピア・アセスメント等による「振り返りによる気づき」の喚起を促す。</p> <p>【学修成果の評価方法】 筆記試験等の客観テスト及びレポートやプレゼンテーションはルーブリックで評価する。また、学生同士のピア・アセスメントも加味する。</p>
(LO3) 思考力・判断力 ・表現力	<p>【教育内容】 教育課程全体を通して、獲得した知識・技能を応用して分析・思考・判断する力を育む。特に、卒論の作成に当たっては、クリティカル・シンキング力を育成する。</p> <p>【教育方法・学修方法】 ディスカッション、グループワーク、ピア・インストラクション、ピア・アセスメント等を通じて、他者の考えを鏡とし、自らの思考・判断を振り返る。</p> <p>【学修成果の評価方法】 記述式・小論文テスト、プレゼンテーション・論文のルーブリックで評価する。また、学生同士のピア・アセスメントも加味する。</p>
(LO4) 関心・意欲・態度	<p>【教育内容】 教育課程全体を通して、社会での出来事と自らの立場・役割・人生との関連性を考えると共に、主体的な学習態度を養う。特に、教養・専門演習では、自らのテーマについて計画的かつ粘り強く調査・分析する力を養う。</p> <p>【教育方法・学修方法】 課題解決型学習の導入を図るとともに、共に教え合い学び合う環境作りと、毎回の授業アンケート結果のフィードバックにより、主体的学びへのモチベーションを高める。また、良い質問の仕方を指導する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 授業外学習時間、予習・復習の実績、受講態度等を評価する。また、学生同士のピア・アセスメントも加味する。その他、インターンシップでは受入先の評価も加味する。</p>
(LO5) 人間性・社会性	<p>【教育内容】 「三位一体のキャリア教育」、各種授業でのグループワーク、教養・専門演習を通じて、コミュニケーション能力や協調性・協働力を育む。</p> <p>【教育方法・学修方法】 グループワーク、ディスカッション、インターンシップ等の経験を積み重ねることでコミュニケーション能力や協調性・協働力を高める。</p> <p>【学修成果の評価方法】 ルーブリックで評価する。また、学生同士のピア・アセスメントも加味する。その他、インターンシップでは受入先の評価も加味する。</p>